

震災遺産に向き合う 視点から

福島県立磐城高等学校
地理歴史・公民科教諭 小峰 朱理菜

小峰 朱理菜(こみね しゅりな)

- ・専門科目:地理歴史・公民科(専攻:世界史)
- ・担当科目:世界史探究(2年次:2単位、3年理系:3単位)
- ・高校卒業した3月に実家(福島県東白川郡塙町)で被災
→翌月には大学進学のため福島を離れる
- ・2015~2017年:いわき市にある私立学校に勤務
- ・2019~2024年:小高産業技術高等学校(南相馬市)勤務
- ・2024~2026年:磐城高等学校に勤務(現2年次担任)

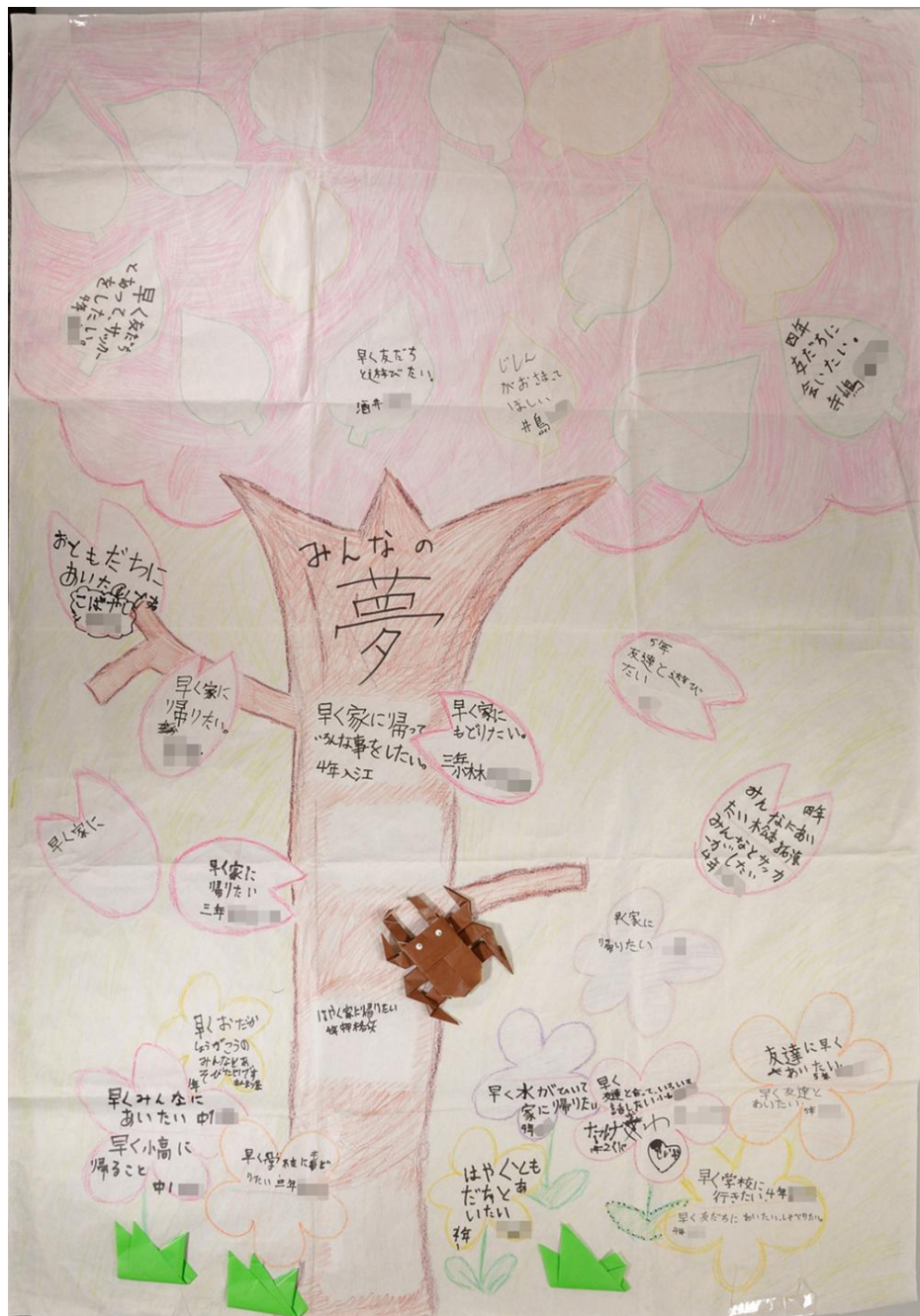
「震災遺産」

Disaster Heritage

【問い】

あなたの
明日への選択肢は
いくつありますか？

ワークシートに書いて
みましょう！



震災の記憶がない高校生が作った問い

生徒が「伝えたいこと」(ワークシートより)

「私は自分の進路について見つけるのが大変だと思っていたけれど、明日生きるためにどうしたらいいか考えなければいけない子供たちもいたということを知って、今の安全な生活のありがたみを知った。」

「勉強できることや悩めることが当たり前ではないということ伝えたい。」

「そして、どうせできないと諦めないで欲しい。」

「語れる被災体験がない」 というジレンマ

01

福島で育ち

高3で被災

家族に被害は無し。
→直後に大学進学。
震災の記憶は
『あまり思い出したくない混乱』
として引き出しの奥へ。

02

被災地で教壇

に立つ恐怖

教員となり赴任したいわ
き市の学校で「デリケー
トな話題だから触れない
ように」と助言される。
被災地の生徒の前に立
つことに強い引け目。

03

ちっぽけな体験

への躊躇

「大した被災経験もない
私が、被災地の子どもた
ちに何を語れるのか？」
——被災体験がないこ
とへの葛藤がずっと続い
ていた。

「教える防災」の限界と スタンスの転換

新科目「地理総合」で必須となった「防災教育」の壁

- ・ハザードマップや避難経路など「ノウハウ」だけを教えて終わりにしていいのか？
- ・震災に触れずに防災教育を行うことはできない。しかし、何をどう教えればいいのか？

■ 指導スタンスの根本的な転換

「先生だから全部知っているわけではない。
正解を教えるのではなく、震災遺産を通して生徒と一緒に考えよう。」

なぜ「震災遺産（モノ）」なのか？

博物館との 連携開発

福島県立博物館の学芸員（筑波 匡介氏）と共に授業を開発。
博物館から「震災遺産」をお借りして、生徒は「震災遺産」を目の前にしながら、「震災遺産」「生徒同士」と対話する。

対話のフック （触媒）

被災体験がない生徒も教員も、モノを紹介することで「何を感じたか」を起点に対話をスタートすることができる。

「正解のない問い」を生み出すためのきっかけにもなる。

モノが持つ 問いかける力

教科書の文章とは異なり、「モノ」は当時の事実や人の思い、葛藤を雄弁に、かつ押し付けがましくなく語りかけてくる。

そこが生徒の「自由な発想」に繋がる。

「震災遺産と問いづくり」の 授業実践

1. 福島県立博物館が所蔵する震災遺産から4種類を選出
2. 筑波氏と共に震災遺産の「問い」を創る。
3. グループごとに震災遺産A～Dについて観察・予想。
4. 筑波氏がグループごとに震災遺産A～Dについてそれぞれ解説する。
5. ワールドカフェ方式で他のグループと震災遺産A～Dを共有する。

震災遺産 A

大会までのカウントダウン①

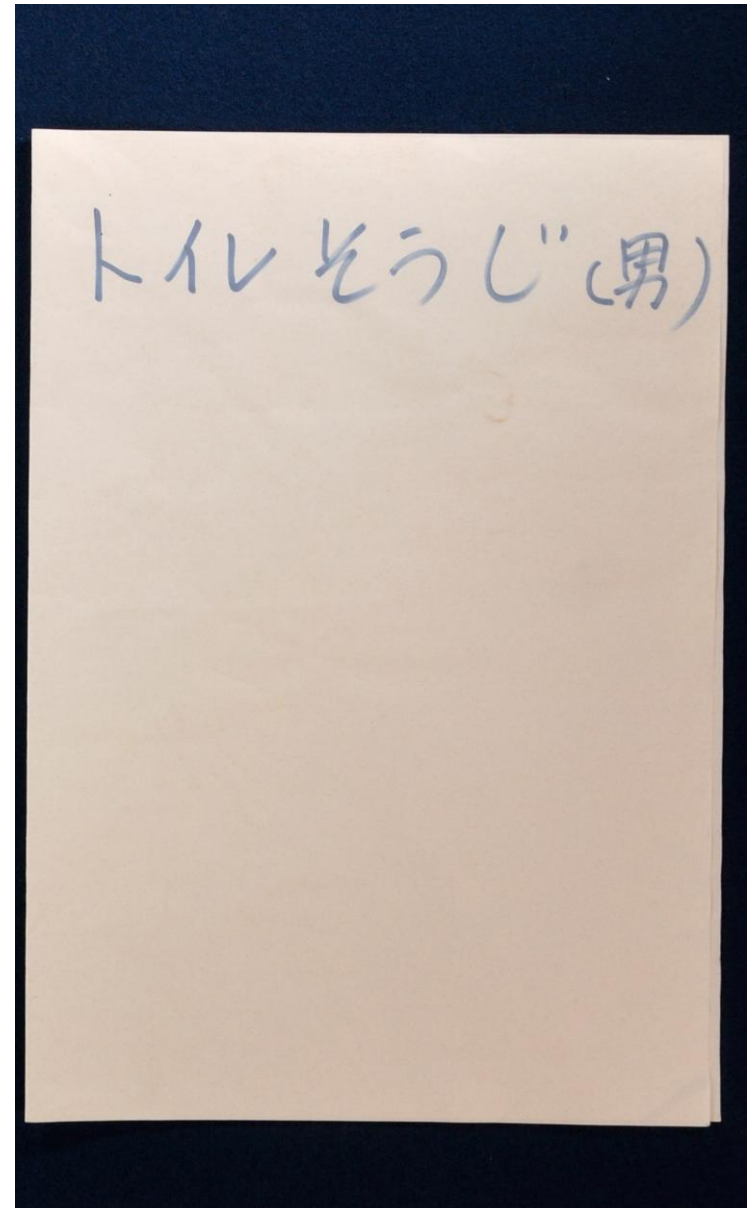
投げ捨てられたままのラケット②

道具も場所もない。
部活もできない！
その時あなたはど
んなことを考えま
すか？

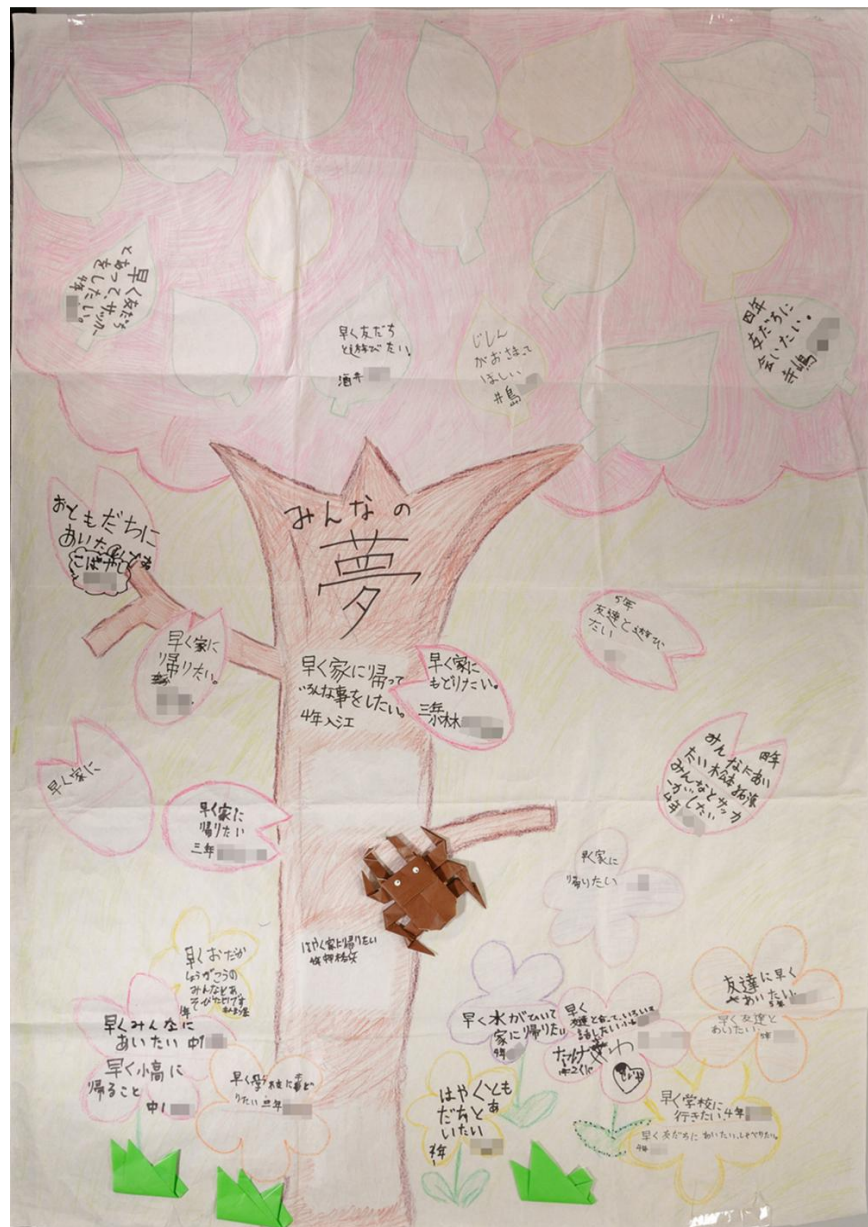


どうして名前が書かれていないのでしょうか？

避難所で何かできることがありますか？



あなたの夢は
何ですか？
比較してどんなこ
とに気がきます
か？



震災遺産D

牛がかじった牛舎の柱

どうして柱はこんな
に削れているので
しょうか？

あなたが牧場主
だったら、牛を逃し
ますか？



「震災遺産と問いづくり」の 授業実践

6. 生徒に「震災伝承を担うこと」の重要性を説明する。
7. 震災遺産A～Dから1つ選んで、「問いづくり」を行う。
8. 「伝えたい相手」を選択する。
9. 個人で考えた「問い」をグループ内で共有する。
10. Googleスライドを使用して「問い」をクラス全体で共有する。
(気になる「問い」には「いいね!」マークをつける)
11. グループワークの振り返り・感想を記入する。

3. あなたが伝えたい「震災遺産」とその相手は誰ですか？選んだ理由も書きましょう。

相手 ※丸を付ける	小高こども園の園児 ・ 出身中学校の後輩 ・ 他県の同世代の高校生
震災遺産	伝えたい相手を想像することで 「問い」が考えやすくなる →教員側もヒント出しやすくなる
理由	

4. 上記3で選んだ震災遺産にあなたはどんな「問い」を考えますか？その「問い」からどんなことを伝えたいですか？

問い	
伝えたい こと	「問い」を考えるよりも前に 「伝えたいこと」を考えること

3. あなたが伝えたい「震災遺産」とその相手は誰ですか？選んだ理由も書きましょう。

相手 ※丸を付ける	小高こども園の園児 ・ ・ ・ 出身中学校の後輩 ・ <u>他県の同世代の高校生</u>
震災遺産	役割分担の貝占り紙
理由	役割分担の紙なのに空白が多いから。

4. 上記3で選んだ震災遺産にあなたはどんな「問い」を考えますか？その「問い」からどんなことを伝えたいですか？

問い	避難生活した先には本当に安全ですか？ この紙は何のために作られたのだろうか！
伝えたいこと	中学校で役割分担するために紙を作った。しかし、原発事故が起きて二次避難生活が必要になった。それに余震もありすごく危険だった。避難生活では身の回りの事を積極的にし、二次災害に備える事が大切だと考えた。

5. 今回の活動を通した全体の感想を書きましょう。

地震が起こる前後の記憶は今でも鮮々してくる事がある。そんな中、違う場所では牛か柱をかいたり、子どもが家に帰りたいたなど願いを書いていてとてもない気持ちになった。記憶がある最後の世代として、震災の恐しさを伝えていく必要があると考えた。

3. あなたが伝えたい「震災遺産」とその相手は誰ですか？選んだ理由も書きましょう。

相手 ※丸を付ける	小高こども園の園児 ・ 出身中学校の後輩 ・ 他県の同世代の高校生
震災遺産	牛が倒れた牛舎の柱 (D)
理由	時間の流れの早さと、ふたたび帰れなかったのかと この牛舎の柱で伝えたい。

4. 上記3で選んだ震災遺産にあなたはどんな「問い」を考えますか？その「問い」からどんなことを伝えたいですか？

問い	・ みんなは家や家族がいなくなったら悲しいですか？ ・ 家や家族は好きですか？
伝えたいこと	・ みんながすぐに家に帰ることができない。家に帰っても、 地震が起きる前、みたいにその家で家族と一緒に楽しく 過ごすことはできないかもしれない。この牛の所に家族で家 族のようにいた牛も、帰ってきたら全員死んでしまったのです。 牛も家族と会うために必死に生きていたのです。

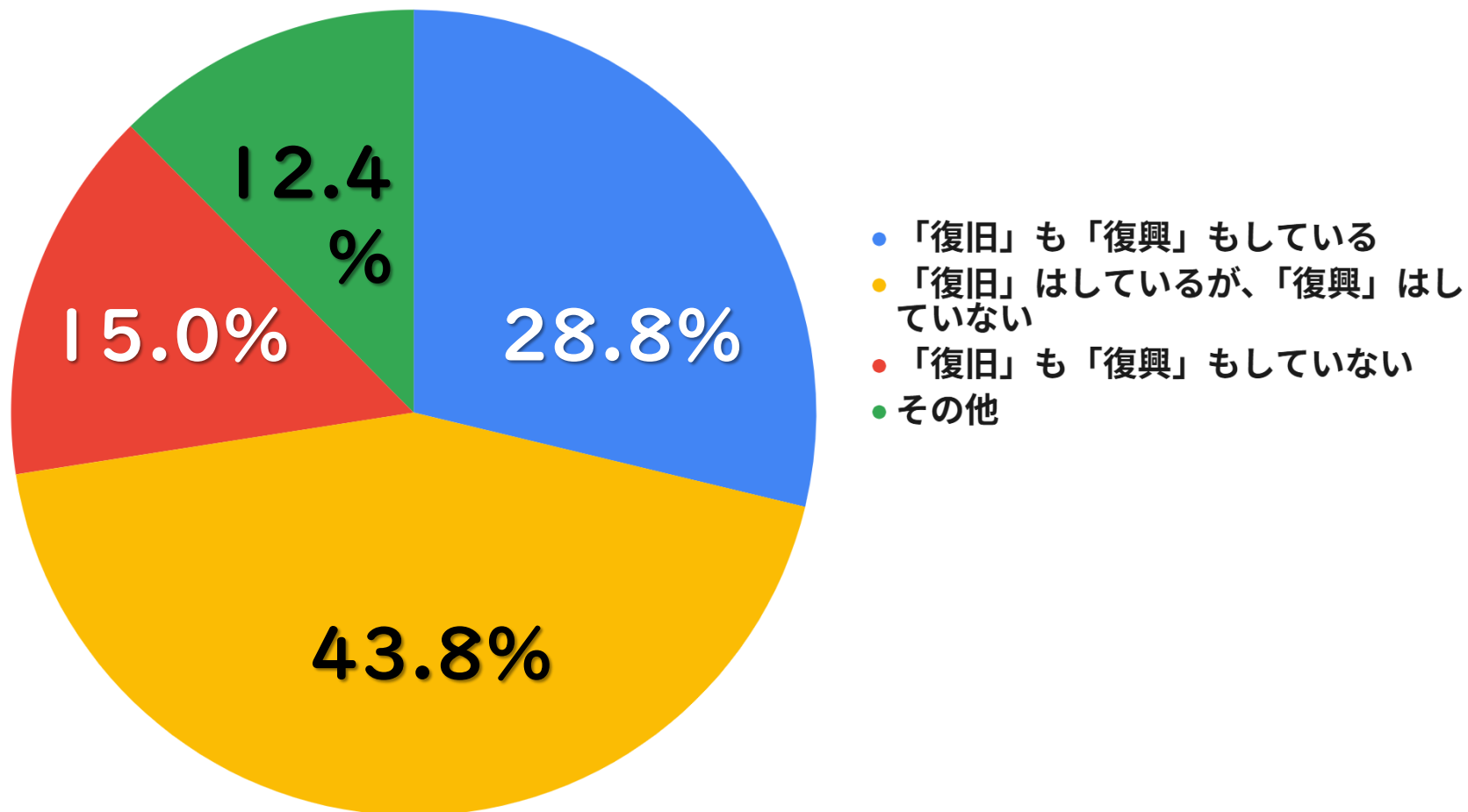
5. 今回の活動を通した全体の感想を書きましょう。

・ 本当に時間とは早いものです。どんなに悲しいことが起きてもいつしか忘れさ
られていくのが私はとても嫌です。震災からもう3年。だんだん震災を伝える
人が減っています。そこであらためるのではなく、私たちの若い世代が震災
の知らないもっと若い世代に伝える、このことが大セリだと私は思います。
震災は、たしかに、人に大きな悲しみを与えます。そんな悲しいことでも
どんなにつらいことでも、私たちは伝えたいといけな。そんな立場に
私たちはいると思いました。

磐城高校での授業実践

- 高校2・3年＝震災時1～2歳児
→ 震災の記憶は一切無い
- 高1生『総合的な探究の時間』
「津波被災地区探究」：震災の探究行う
→ 「経験」は出来ても「伝承」までは出来ていない

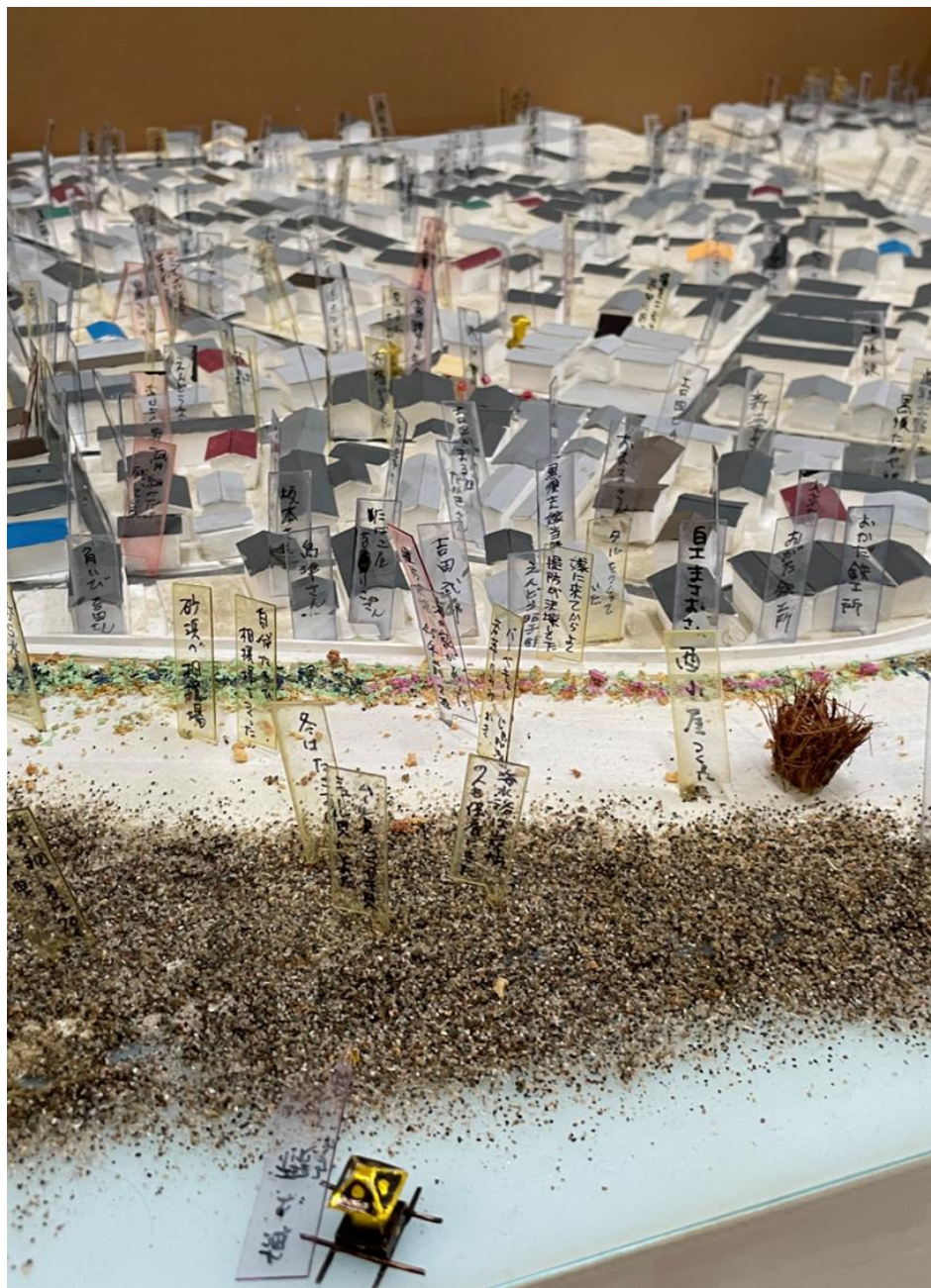
あなたは福島県は「復旧」「復興」していると思いますか？



震災遺産 A

久之浜「失われた街」模型

震災前を知っている
人々は今の久之浜を
見て、どんな気持ち
を抱くだろうか？



震災遺産 B

バスの待合室に放置されたやかんとお茶

どんな気持ちでお茶を
温め、待っていたのだ
ろうか？

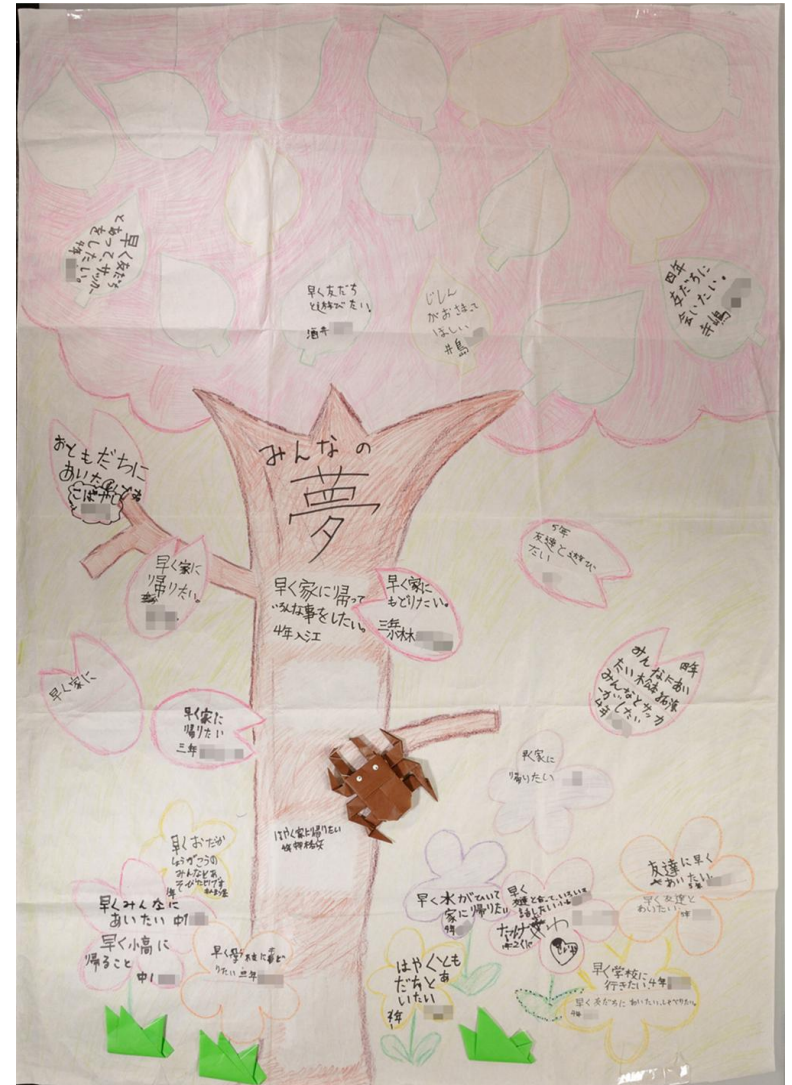
お茶はなぜ飲まれな
かったのか。



震災遺産C

みんなの夢

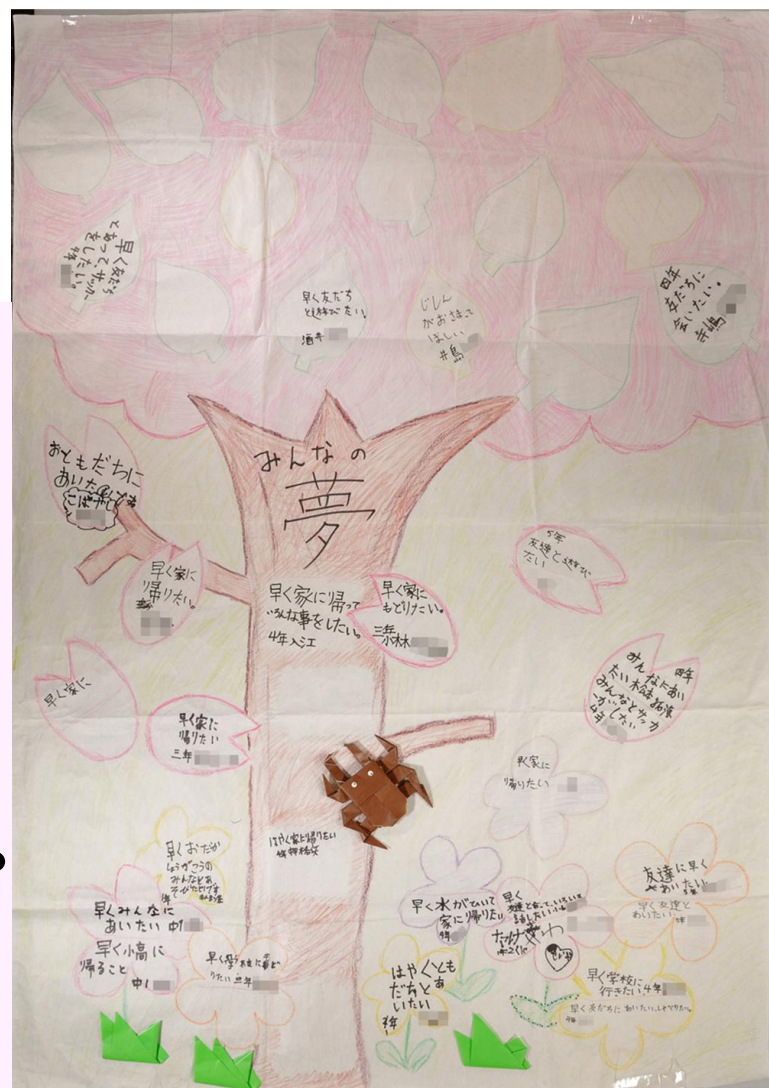
みなさんはここにどんな
願いを書き加えますか？



みなさんはここにどんな願いを
書き加えますか？

【伝えたいこと】

願い事というのは、日常のささいな時でもすることだと思います。「テストで80点以上取ってますように」とか「今日雨降りませんように」とか。そんなよくする願いをこんなにも強く祈るときはないと思います。そんな切実な願いが感じられる写真だと思います。



震災遺産D

牛がかじった牛舎の柱

牧場主は牛にどんな言葉
をかけて別れたのだろう
か？

みなさんは牛の最期を
どのように創りますか？



震災遺産D 牛がかじった牛舎の柱

牧場主は牛にどんな言葉をかけて別れたのだろうか？
みなさんは牛の最期をどのように創りますか？

「命の重さは全て同じ」という言葉があるが、このような惨事が震災時には起きてしまう。生き物を飼っている人は、この遺産を通して、非常事態の時にどのように生き物と向き合うのかを考えてほしい。また、生き物を飼っていない人でも牧場主が置かれている状況などから、牧場主の決断の裏に隠されたものを読み解き、震災について理解を深めてほしい。



3. あなたが伝えたい「震災遺産」とその相手は誰ですか？選んだ理由も書きましょう。

相手 ◎丸を付ける	出身中の後輩 ・ 他県の高校生 ・ <u>海外の人(英語圏)</u> ・ 震災経験者
震災遺産 (A~D選J)	A
選んだ理由	震災前後の比較、またそのエッセイの題いを知ることによって、異文化から

4. 上記3で選んだ震災遺産にあなたはどんな「問い」を考えますか？その「問い」からどんなことを伝えたいですか？

問い	What has those who had lived in Hiroshima and be forced to leave there lost and gotten? Weren't there any good things in the disaster?
伝えたいこと	(タノ決ト付ムでいて、立ち去る事で失うものは何を使い、何を得たのか？震災害トけ、良カト事は無カッタのだから、 外国人に福島出身トいって聞くと驚カ入る事がある。しかし、外国人は「震災があつた」という事以外トは詳細に知って居るからうか？何を失ったか、それはよく考えられてきたが、何を得たのかについてはあまり考えられていなかった。これは日本人も同様だが、災害の教訓

5. 今回の活動を通した全体の感想を書きましょう。何を向きな事ができて、前向きな物事を

何事にも向き合う姿勢を伝えてほしい。 皆で震災遺産を通じて震災に向き合う時間が経過して、それが人達にも通ずる深い学びがあると思いたい。

何を失ったか、それはよく考えられてきたが、何を得たのかについてはあまり考えられていない。
災害の教訓・協力することの大切さ、新しいコミュニティなど得られたりしたはず。
前向きに物事を考え、より未来に繋がる伝承をしてほしい。

3. あなたが伝えたい「震災遺産」とその相手は誰ですか？選んだ理由も書きましょう。

相手 ※丸を付ける	出身中の後輩 ・ 他県の高校生 ・ 海外の人(英語圏) ・ 震災経験者
震災遺産 (A~D 選ぶ)	B
選んだ理由	Bが4つの中で一番印象に残ったから。 このことも同世代で震災も知らない人に知ってほしいから。

4. 上記3で選んだ震災遺産にあなたはどんな「問い」を考えますか？その「問い」からどんなことを伝えたいですか？

問い	震災以前、新聞配達員や待合所利用者はどのような気持ちでお茶を飲んでいたのか？あたたかいお茶がいつもあることに対してどう感じているのか？
伝えたいこと	このお茶を取ってほめる、このサンプルが何度も繰り返され、配達員や利用者にとっては当たり前になっていたと思う。しかし一瞬の出来事で当たり前がとぎれ、当たり前でなくなっていた。 私たちが過ごす何気ない日常も当たり前ではなくなるものなのかもしれない。

5. 今回の活動を通した全体の感想を書きましょう。

感想	今までは死者数や避難所の様子が主で震災によって知らなかったが、今回の資料を見て、被災者の目線にたつたものを見ることで、被災者全員の姿がより具体的に被災者の視点に立つて考えることができた。
----	---

震災以前、新聞配達員や待合所利用者はどのような気持ちでお茶を飲んでいたのか？あたたかいお茶がいつもあることに対してどう感じていたのか？

私たちが過ごす何気ない日常も当たり前ではなく、尊いものなのかもしれません。

【生徒の変化】

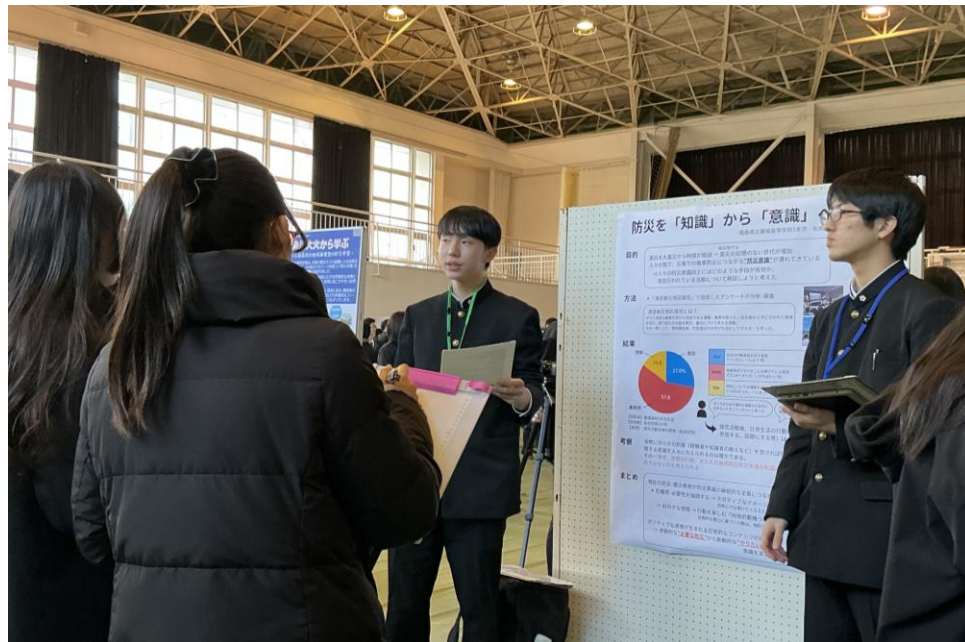
生徒による「震災伝承ゼミ」の立ち上げ

■ 受動的な学びから主体的行動へ

- ・「教えられる側」だった生徒が、自ら問いを発し、伝える「当事者」へと変化。
- ・授業で生まれた問いが生徒の心に残り続け、探究への強いモチベーションとなった。

■ 生徒発案「震災伝承ゼミ」の誕生

- ・今年度、本校（磐城高校）で生徒たちが自主的に「震災伝承ゼミ」を立ち上げた！
- ・冒頭で紹介した『明日への選択肢』の問いを作った生徒も立ち上げメンバーの一人。
- ・教員と生徒が『震災伝承や防災を共に学び合う仲間（パートナー）』になった喜び。



【対話の広がり】

同世代へ手渡される「問い」

長野県・松本深志高校との交流授業（Zoom）

- 『問い』を受け取った他県の高校生たちの反応

「ただの知識」としてではなく、手渡された問いを自分の問題として捉え、真剣に考え議論。

- 双方向の対話コミュニティの創出

被災地から一方的に「教える／教わる」関係を超えて、同世代同士が「問い」を通じて共に考え合う場が生まれた。

東京大学生との交流授業

- 『問い』を通して生まれる「対話」

「問い」を通してそれぞれの立場や価値観を踏まえて、同じ目線で対話ができる。

- 記憶がない世代同士だからこそその共感

「記憶がない／経験していない」同じ立場だからこそ、同じ目線で目の前の「問い」について深く考えることが出来る。

【教員の変化】

語り部から「対話の伴走者」へ

■ 震災に向き合う教員自身の変容

被災体験を語ることに躊躇していた教員も、
「震災遺産」「問い」というトリガーがあることで
『語り部』という立ち位置ではなく、
同じ問いを考える『問いの伴走者』として
震災の伝承に携わることが出来る

「震災遺産と問いづくり」から考える 新しい震災伝承の可能性

- 震災を知らない世代でも「問いづくり」を通して震災伝承ができる
 - 誰でも「伝承者」になり得る活動
- 「問いづくり」から始まる新たな震災伝承
 - “持続可能性のある震災伝承”

震災遺産を通した「対話」から生まれる「震災伝承」

「教える伝承」から 「共に問い、対話する伝承」へ

本日はご清聴ありがとうございました。

✉ komine.syurina@fcs.ed.jp